

防犯住宅を考える

地域で取り組む防犯『タウンセキュリティ』 「個(戸)」から「面」へ「安心」の街づくり

東洋テック株式会社 営業本部 ソリューション営業開発部 齋藤 浩行

1. はじめに

犯罪情勢に関する統計を見る限り、近年、その数字は着実に改善していると言えます。特に、住宅対象の侵入盗の認知件数は、平成15年をピークに減少の一途を辿り、平成21年は81,436件とピーク時の半分以下にまで減少しました。さらに、検挙率も改善を続けており、平成21年は59.1%にまで上昇しています。これらは過去の推移にあっては明るい話題に違いないのですが、1日あたり200件以上の侵入被害が発生し、そのうちの4割が捕まっていないという事実は、まだまだ「安心」とは言い切れない現状を裏付ける数字ともなっています。

さて、防犯住宅を考える上で、①対象物の強化、②監視性の確保、③接近の制御、④領域性の確保という4つの基本原則が重要となってきます。より直接的、個(戸)別的な対策として、①対象物の強化や③接近の制御により、いわゆる「防犯設備」を強化することが挙げられますが、今回は視点を変えて、どちらかと言うと間接的、面的な対策として、②監視性の確保や④領域性の確保の視点から、地域で取り組む防犯についてご紹介させていただきたいと思います。

【防犯環境設計における4つの基本原則】

①対象物の強化

出入口や窓、扉などを強化して建物への侵入を防ぐこと。

②監視性の確保

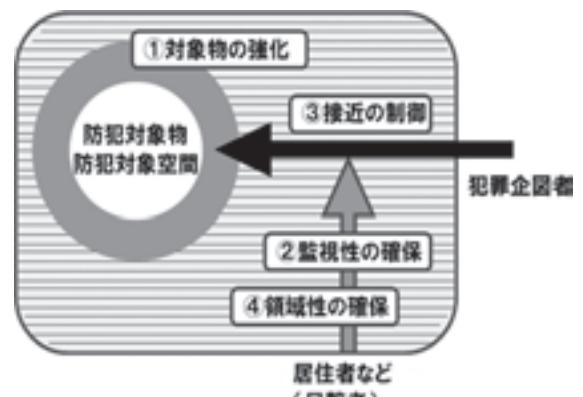
街路や窓からの見通しの確保、照明の改善などにより、住民の目が自然に届くような環境をつくること。

③接近の制御

共同住宅のオートロックシステムによる境界をつくって、犯罪企図者が容易に敷地および建物に接近することを妨げること。

④領域性の確保

住宅やその周辺の維持管理状態を改善したり、住民相互の活動や交流を促して、部外者が侵入したり滞留しにくい雰囲気をつくること。



2. 東洋テックのセキュリティ業務

東洋テックは、昭和41年の設立以後、おもに事業法人先への機械警備業務を通じて防犯のお手伝いをさせていただいて参りましたが、平成13年に関西電力、日本パナユーズとの共同事業会社「関電セキュリティ・オブ・ソサイエティ(関電SOS)」を設立、40数年来培った警備ノウハウをホームセキュリティ分野にも活かしながら、より身近な警備会社として地域のみなさまに「安心」をお届けするお手伝いをさせていただいております。

関電SOSホームセキュリティでは、広範囲な3次元エリアで侵入をキャッチする高性能パッシブセンサーの採用により、コストパフォーマンスに優れたより身近なホームセキュリティが実現しました。もしもの時は、携帯電話にメール通知する「警報メール通知サービス」を標準装備、もちろん東洋テック・日本パナユーズの警備員が駆け付け、迅速に対処いたします。その他、携帯電話で開始・解除の操作ができる「遠隔操作機能」や、通信回線の二重化による信頼システムで「安心」が広がります。

3. 関電SOSの「タウンセキュリティ」

近年、防犯カメラが犯罪防止や犯罪捜査での重要な決め手となるケースが増加し、地域単位で防犯カメラを導入するケースが増えています。関電SOSでは、関西電力グループの光ファイバー網を活用した最新の防犯カメラシステムにより、「安全な街で安心できる暮らしを送りたい…」という、地域のみなさまの切実な思いにお応えできるよう、全面的なバックアップを行っています。

【関電SOSタウンセキュリティの概要】

①24時間連続撮影「防犯カメラ」

高性能なカメラで24時間365日撮影し続けます。効果的な設置ポイントの選定も合わせてご提案させていただきます。

②プライバシー対策「画像変換装置」

撮影画像を伝送する通信網をインターネットVPNを利用した専用線網で接続し、セキュリティレベルを上げることにより第3者の盗み見を防止します。

③画像を伝送する「光ファイバー網」

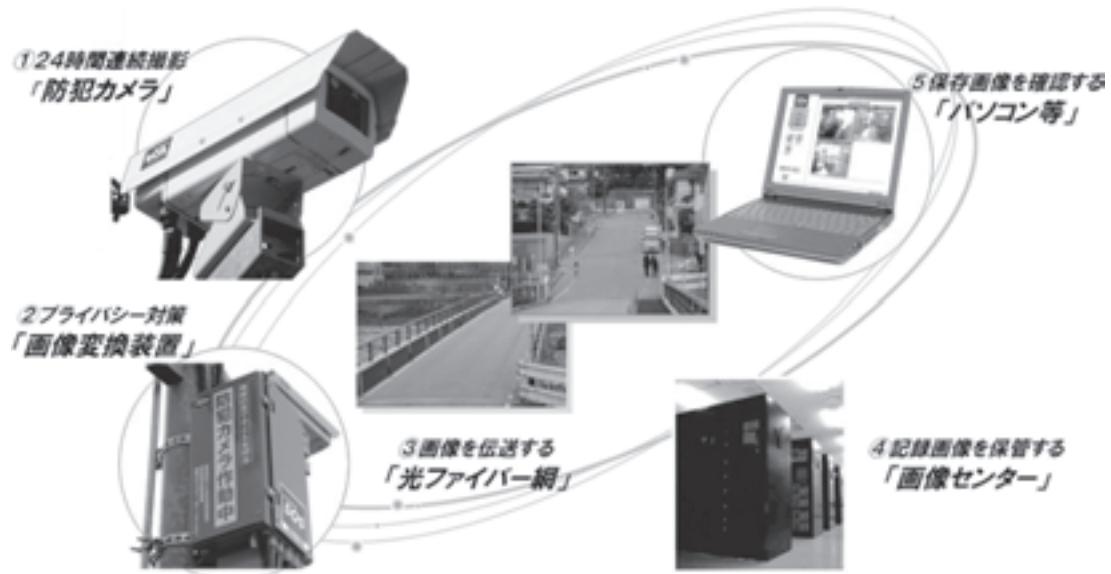
関西電力グループの光ファイバー網を利用して、大容量の画像を迅速に伝送します。

④記録画像を保管する「画像センター」

24時間1秒1コマの画像を、画像サーバーに保存します。堅牢な画像センターで保管するため、記録装置の破壊やデータの持ち去り等の心配はありません。

⑤保存画像を確認するパソコン等

画像はインターネットが利用できるパソコンならどこでも閲覧が可能です。（遠隔地からでも確認できます。）一方でIDとパスワードで閲覧者を制限することで厳正な運用をサポートします。



防犯カメラの存在は、犯人に対して「撮られている」といった“威圧感”を与える効果とともに、地域全体で防犯活動に取り組んでいるアピールとなり、その存在だけで犯罪の抑止力があります。さらに万一事件等が発生した場合でも、防犯カメラが記録した画像によって迅速で適切な処置が可能となり、被害拡大を早期に防ぐことができます。一方で、公共空間に防犯カメラを導入するにあたっては、個人のプライバシーや記録装置の破壊など、さまざま点に注意を払う必要がありますが、関電SOSがご提供する防犯カメラシステムは最新のセキュリティシステムで、導入に向けて「安心」のサポートを行います。

【関電SOSタウンセキュリティの導入事例】

①奈良市富雄地区様

富雄地区では、地域の子供たちの安全確保を目指して、地域が主体となった保護者、ボランティアによる付き添い集団登下校を導入。さらに、関電SOSの防犯カメラシステムを通学路に設置し、登下校の時間帯以外にも24時間子供の安全を見守っています。公共空間に防犯カメラを設置する場合気になる「プライバシーの問題」も、関電SOSのシステムとルールづくりで徹底的にカバー。これら子供たちを見守る取り組みを通じて、住民一人一人の防犯意識が高まっただけでなく、地域住民間の結びつきが強くなったと喜ばれています。「地域で子供を育てる」という発想が、自ずと「子供たちを守る」という意識につながっていくとのことです。

②京都三条会商店街様

商店街では以前から夜間のひったくりや自販機荒らしが多発。中には店舗のシャッターに穴を開けて侵入し、商品などが盗まれる被害も発生していました。また、約800mもある長い商店街のため、自転車で来られるお客様が多く、前カゴに入っていた品物の置き引きも大きな問題になっていました。そこで、商店街が近隣の小学校の通学路になっていたこともあり、「地域の安全のために必要」という商店街振興組合のご判断のもと、防犯カメラシステムの導入を決定。セキュリティ導入後は自販機荒らしや置き引き、違法チラシが柱に貼られる被害も少くなり犯罪抑止につながっています。これからも「安心・安全に買い物ができる商店街」を目指に、防犯に取り組んでいかれるとのことです。



① 細い道が入り組んでいる奈良市
② 24時間監視を続ける関電SOS富雄地区。だからこそ防犯カメラによる防犯カメラ。この存在が地域住民によるタウンセキュリティの効果は大きいと言えます。



① 堀川通から千本通にかけての三条通に約180店が軒を連ねる京都三条会商店街。大正時代から続く京都唯一の規模を誇る商店街です。
② 約800mの商店街に全41台のウェブカメラを設置。導入時にお客様からの反対意見はまったくなかったそうです。

4. 東洋テックの「登下校管理システム」

最後に、地域で取り組む防犯に関する連携として、東洋テックの「登下校管理システム」についても紹介させていただきたいと思います。これは、学校への登下校を把握する「登下校情報通知サービス」と、自宅から通学路を経由して学校までの位置情報を確認できる「位置情報提供サービス」から構成されています。ちなみに、「登下校情報通知サービス」は関西大学高槻ミューズキャンパス様にてご採用いただいております。

【登下校情報通知サービス】

ICタグを所持した児童が校門を通過した時に、あらかじめ登録された保護者の携帯電話またはパソコンのメールアドレスへ登下校時刻等の情報をお知らせします。これによりお子様の登校確認および帰宅予想等ができます。ICタグは6年間連続使用できますので、ランドセルに装着すれば小学校入学から卒業までメンテナンス（充電）は不要です。その他、学校からの「お知らせメール」を受け取ったり、「学校行事予定」を参照することもできます。

【位置情報提供サービス】

- 今すぐ検索機能：お子様が帰宅時刻になっても帰ってこない場合など、携帯電話またはパソコンから今どこにいるかおよその場所を確認できます。
- 見守り機能：家から学校までの移動の軌跡が確認できたり、移動検知（学校の近くに着いたなど）ができます。
- 自己位置通知機能：位置情報付き（住所、位置検索精度、地図）メッセージをメールで送信することができます。



5. おわりに

近年、近所づきあいの希薄化などが問題視されていますが、地域コミュニティを活性化することは、最も効果的かつ効率的な防犯対策となり得ます。実際、「声をかけられた」というのが、侵入盗が犯行をあきらめる最も大きな要素であるというデータも存在します。日頃からご近所どうしが挨拶を交わし、不審者がいれば積極的に声掛けをする、そんななんでもない日常の行動が「安心」につながるのです。

東洋テックおよび関電SOSは、「個（戸）」ごとの警備を通じてご家族の「安心」を見守ることはもちろん、「面」で取り組む防犯のお手伝いもさせていただき、地域のみなさまの「安心」、そして笑顔を見守っていきたいと考えています。